

ナエシ

(2) 生き物

ニホンアカガエル, トノサマガエル, シュレーゲルアオガエル, アカハライモリ, サワガニ, ミズカマキリ, マメゲンゴロウ, コツブゲンゴロウ, チビミズムシ, ヘイケボタル, アメンボ, マツモムシ, オオコオイムシ, カワニナ, ハッチョウトンボ, アオイトトンボ, ギンヤンマ, メダカ (大学近郊のため池より移入) など



ニホンアカガエル



アカハライモリ



ヤゴ (ギンヤンマ系)



マメツブゲンゴロウ

4. 大学祭参加企画について

日時：平成20年11月2日 11:00~17:00

場所：ふれあいビオトープ (角脇川護岸東側)

主催：技術センター

技術センタースタッフ

担当	氏名	所属
受付	清水 高	環境管理部門
受付	輝平 盛重	理工学系部門
プレゼント係	下川 久義	理工学系部門
プレゼント係	平松正太郎	理工学系部門
観察係	塩路 恒生	フィールド科学系部門
観察係	宇都 武司	フィールド科学系部門
観察係	山口 信雄	フィールド科学系部門
観察係	坂下 英樹	環境管理部門
事前準備	青山 幹男	フィールド科学系部門
事前準備	下岡 丈次	環境管理部門
事前準備	渡辺 文雄	理工学系部門

*9月30日にビオトープの整備・清掃, 10月31日に企画準備を行った。

当日の企画内容

【企画1】

虫取り網によるメダカ, 水生生物の捕獲と観察
幼稚園児・小学生の子供たちによる生き物との体験の場を提供した。

【企画2】

メダカ, ハナショウブ苗のプレゼント

子供たちの捕まえたメダカを3~4匹, 1リットルのペットボトルに入れてプレゼントした。

【企画3】

生き物の観察

捕まえた水生生物を小型水槽に入れて展示解説した。臨界実験所・山口職員の発案により, 海の生き物の展示, 顕微鏡によるプランクトンの観察を行った。ウミホタルもプレゼントした。

【企画4】

お絵かきコーナー

子供たちにクレヨン・色鉛筆を提供し, 捕まえた生き物を自由にお絵かきしてもらった。

【企画5】

ビオトープの生き物・植物のパネル展示

夏から秋にかけてビオトープでみられる花や生き物のスケッチ画を展示した。

参加者：大人434名, 小学生252名, 幼稚園・保育所86名, その他18名

合計 251組, 794名

(参考：第1回168名, 第2回276名)

*当日は, 大学祭スタンプラリーの企画チェックポイントとしても協力した。

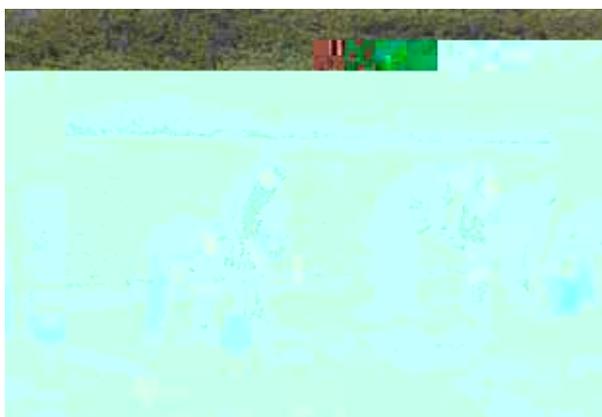
当日の写真



受付・大学祭スタンプラリー



メダカプレゼントコーナー



ビオトープでの生き物との触れ合い



ハナショウブ苗のプレゼント



自然との体験を楽しむ親子づれ



水生生物観察コーナー



海の生き物観察コーナー



ビオトープに咲く花の展示



顕微鏡によるプランクトンの観察



お絵かきコーナー

5. 大学でビオトープ企画を行う意義

広島大学キャンパス中央部の谷あいには統合移転する前から形成されていた里地生態系が残されており、約30種類の絶滅危惧種を含む生物が棲息・自生している。このような里地生態系はわが国における長年の農耕文化と結びついて成立してきたものであり、そこに見られる生き物は私たちの暮らしの中で親しまれてきた。しかし、化石燃料に頼る生活スタイルの変化や農業・土木技術の発展により里地生態系そのものが放置・破壊されている。近年は、地球温暖化やリサイクル、少資源、環境汚染などの環境問題に対する関心が高くなり、また各地でさまざまな生き物の保護活動が行われる状況の中で、学内の自然環境を活用した環境活動が必要であると考える。

目標とするビオトープの姿

柴刈りが行われていた明るい里山
山際の湧き水が流れる湿地
稲作文化を支えたため池・水路・水田の
水辺

大学で行っているビオトープ管理

ビオトープ管理 = 自然生態系の保全

- ・里山...落葉期に笹や低木類の下刈り。ミツバツツジ，アセビなどの景観を作る種類は残す。
- ・湿地...落葉期に笹や低木類の下刈り，初夏に大型草本の刈り取り。
- ・水辺...冬～春に池や水路の土上げ，春から夏